



未来につながる「最後の社会貢献」

貴方の「思い」を
のこす遺贈へ

貴方の「思い」をのこす遺贈へ

遺贈寄付サポートセンターからのご挨拶

2022年度も温かなご支援をいただきました

長く続いたコロナ禍を経て、街に活気が戻りました。白南風が爽やかな季節を迎えておりますが、皆様には、お元気にお過ごしのこととお慶び申し上げます。

日本財団遺贈寄付サポートセンターは、2016年から遺贈にまつわご相談業務を行っており、皆様の尊いお気持ちを伺う活動は8年目を迎えました。ここに2022年度の活動をご報告いたします。

あなた様の思いを未来につなぐために、これからもおひとりおひとりの大切な思いに寄り添いながらご相談を承って参りたいと思います。

日本財団遺贈寄付サポートセンター 木下園子

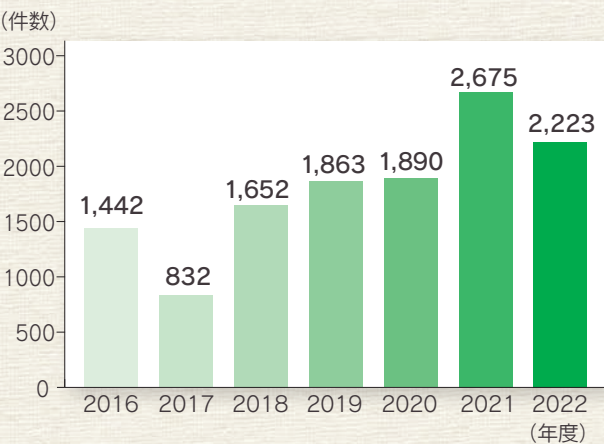
遺贈寄付

389,894,016円<10件>

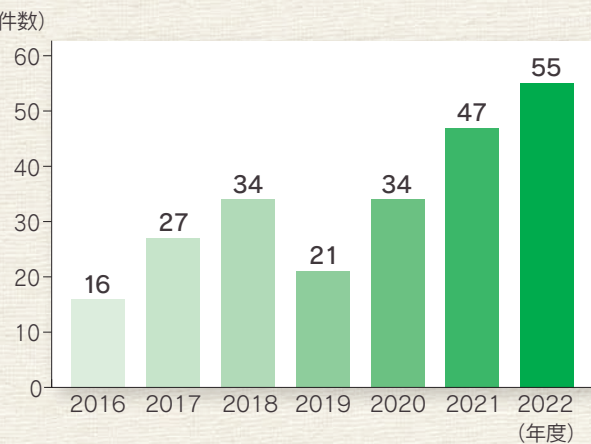
相続財産からの寄付

52,864,846円<7件>

お問合せ件数の推移



遺言書受領件数の推移



活動のご報告

CONTENTS



事業実施報告

レポート1	東北の自然の中の学び ～子ども第三の居場所～	P.4
レポート2	ホームホスピスの建設	P.5
レポート3	日本の和文化の振興と発展	P.6
レポート4	子どもと女性のための私設避難所の設置	P.7
レポート5	コロナ禍における往診体制強化と普及	P.8
レポート6	性の健康啓発キット配布と研修の開催	P.9
レポート7	子どもの安全ポータルサイト構築	P.10
レポート8	日本財団 夢の奨学金	P.11
	遺贈寄付のその後 ～カンボジアにおける簡易体育館建築事業～	P.12

その他の活動

①	セミナーを実施いたしました	P.13
②	日本相続学会研究大会に登壇しました	P.13
③	アンケートを実施いたしました	P.14
④	第7回 ゆいごん川柳を募集し 大賞を決定いたしました	P.15

東北の自然の中の学び ～子ども第三の居場所～

事業内容 「子ども第三の居場所」を利用する子どもたちに、東北での滞在型体験や食育のオンラインプログラムを通じて豊かな自然を学んでもらう機会を提供する支援をいたしました。



日本財団は、子どもたちが放課後に安心して過ごせる居場所を提供し、生き抜く力を育むことを目的とした「子ども第三の居場所」を設置（152拠点 2023年3月現在）・支援しています。この拠点を利用する子どもたちを対象にした、東北の豊かな自然環境や暮らしについて学ぶ食育オンラインプログラムと、実際に現地に滞在してもらう事業を、水野久栄様からの遺贈寄付と3名（木村家基金、「故・足立徳一様」、T様）からの相続財産寄付を活かして支援しました。

事業を行うのは、宮城県石巻市雄勝町の公益社団法人MORIUMIUS（モリウミアス）。東日本大震災で大きな被害を受けた町には、廃校となった築93年の小学校舎がありました。ここを体験型複合施設として生まれ変わらせ、体験型宿泊や他県から小学生～中学生を受け入れる1年間のプログラムの漁村留学などを実施しています。

2024年3月までにオンラインプログラムは12回実施。全国24拠点の子ども延べ2880人が受講します。現地滞在プログラムは2泊3日を8回、4泊5日を2回実施し、拠点を利用する子ども延べ264人が参加します。古代米の収穫やウニ・ホタテの漁業体験など季節に応じた体験を通じ、自然の中で五感を解放して自分の知りたいことや深めたいことに出会い、気付くきっかけとなることでしょう。



本事業は水野久栄様からの遺贈寄付と、木村家基金、足立徳一様（故人）、T様からの相続財産寄付を活用させていただきました。

- 実施団体名／公益社団法人MORIUMIUS（モリウミアス）
- 事業費総額／38,150,000円（支援額 38,150,000円）



ホームホスピスの建設

事業内容 その方らしく生き、逝くためのホームホスピスの建設と整備を支援いたします。



最期まで住み慣れた地域・自宅で過ごしたい。でも、自宅では家族の負担が重かったり、一人暮らしでは不安が募ったりで難しい。そこで、普通の民家で看護師や介護職員らと一緒に擬似家族のように最期まで暮らす「ホームホスピス®」は、「在宅ホスピス」のモデルの一つだと日本財団は考え、普及・整備を支援しています。

NPO法人太陽が大分県宇佐市で運営するホームホスピス「おけたん宇佐」（定員5人）は「我が家のような温もりの中でその方がその方らしく生き、逝くためのお手伝いをします」と掲げています。地域でのニーズは高く、入居希望者が定員を超える状況が続いています。そこで2か所目の拠点を開設することになり、整備費を日本財団が支援しました。定員は計10人に増え、2024年2月頃には新たな入居者を迎え入れます。

支援には小檜山公一様からの遺贈寄付を活用させていただきました。小檜山様は自身の病気の治療で、ホスピスでの看護師の仕事ぶりに心を動かされ、またお母様の介護を通して、ヘルパーたちの業務の重要性も強く感じておられ、財産をホスピスナースやヘルパーのために活用してほしいと願っていらっしゃいました。

（®一般社団法人全国ホームホスピス協会）



本事業は小檜山公一様からの遺贈寄付を活用させていただきました。

- 実施団体名／特定非営利活動法人太陽
- 事業費総額／51,980,000円（支援額 51,980,000円）



日本の和文化の振興と発展

事業内容

日本の伝統的な和文化の振興とともに、技術を継続するための仕組み作りのプロジェクトに支援いたしました。



「一般社団法人日本和 문화振興プロジェクト」は企業や自治体などが協業し、持続可能な日本の和文化発展の仕組みを構築するために2020年5月に設立されました。全国で活動する若手伝統工芸作家を発掘し、作家と企業・消費者との交流の場を提供して作品を展示販売するまでをサポートしています。

そんな場の一つとして「第1・2回日本和 문화グランプリ」受賞作品の展示即売会開催（2022年11月）を支援しました。「自然保護分野などで活動する人たちのため有益に使う欲しい」と希望されていたK様からの遺贈寄付を活用させていただきました。日本文化と自然の保護は深い関係があるからです。

「世界へ和文化を発信」の思いから開催場所は羽田空港。700年以上続く簗締め（たがしめ）技法を生かした木桶や、一本ごとに日本の職人に手作りされた簗に徳島の藍染で染色した塵取りを組み合わせたもの、日本建築の伝統的技術である舟肘木（ふなひじき）を活かしたカウンターテーブルなど大小さまざまな作品が展示されました。作家によるトークもあり、作家と消費者が直接触れ合う場となりました。



本事業はK様からの遺贈寄付を活用させていただきました。

- 実施団体名／一般社団法人日本和 문화振興プロジェクト
- 事業費総額／5,180,000円（支援額 4,140,000円）



子どもと女性のための私設避難所の設置

事業内容

女性や子どもが安心して避難できる私設避難所を作るためのリーダー養成講座、シンポジウムの開催、避難訓練の実施などを支援いたしました。



地震などの災害が起きた時、避難所は安全・安心に過ごせる場でなければなりません。しかし、避難所で性暴力や子どもへの暴力などが起きたことがありますし、女性用トイレや生理用品が足りない、授乳スペースがない等、男性中心に運営がなされる避難所において見逃される視点はまだまだあります。そこで、子どもと女性が安心して過ごせる私設の任意避難所を各所につくるために、避難所運営リーダー養成講座とシンポジウムを開きました。運営のための手引書500部を作成し、配布しています。

熊本地震をきっかけに活動を開始し、2020年に法人設立した一般社団法人こども女性ネット東海の事業です。保育所や子ども食堂といった子ども支援事業所が、災害時に避難所として利用児童・保護者らを受け入れられれば大きな安心につながり、一日も早く日常生活を取り戻すことにもつながるはずです。東海地域の中学校区ごとに一つ、そんな避難所が開けるよう活動を続けています。

今回の事業には、杉本浩三様からの遺贈寄付と、木村家基金からの相続財産寄付を使わせていただき支援しました。子どもの未来への思いが込められた寄付です。



本事業は杉本浩三様の遺贈寄付と木村家基金の相続財産寄付を活用させていただきました。

- 実施団体名／一般社団法人こども女性ネット東海
- 事業費総額／5,000,000円（支援額 5,000,000円）



コロナ禍における往診体制強化と普及

事業内容

コロナ禍での往診用医療体制における
安定的な医療の供給を支えるための支援をいたしました。



コロナ禍では必要な入院ができず、自宅での闘病を余儀なくされた方が多くいます。在宅でも安心して療養できる体制をつくろうと、2021年2月に京都市の診療所が集まって結成、22年3月に法人設立されたのが、新型コロナウイルス感染症専門の訪問診療チーム「一般社団法人KISA2隊(きさつたい)」です。日本財団は2022年2月、活動拠点の整備と担い手拡大のためのマニュアルや動画の作成支援を行い、ネットワークは全国17道府県に広がり、10,000回を超える往診実績へとつながりました。

感染拡大第7波では、変異株の影響で自宅療養者が爆発的に増えました。この事態に対応するため実施したのが本事業です。京都・大阪拠点に往診用車両を整備、運転要員を確保したほか、秋田や栃木、熊本など全国5拠点に往診用医療機材を配備し、往診チームの負担軽減と効果的かつ安定的な医療提供体制の強化につなげました。医療分野への活用を希望されていた、杉本浩三様と黒澤泰子様からの遺贈寄付と木村家基金からの相続財産寄付が活かされ、多くの命が救われています。

日本財団は、コロナ禍で対面での実施機会が失われた救急看護師養成講座のオンライン化や医療機関における感染症対策機器の整備支援などでも医療現場を支えています。



本事業は杉本浩三様、黒澤泰子様からの遺贈寄付、
木村家基金からの相続財産寄付を活用させていただきました。

- 実施団体名／一般社団法人KISA2隊(きさつたい)
- 事業費総額／4,990,000円(支援額 4,990,000円)



性の健康啓発キット配布と研修の開催

事業内容

避妊具などの性教育啓発キットの配布や
オンライン研修の実施により、
若者への正しい性教育を行うための支援をいたしました。



日本の性教育は先進国の中で遅れているといわれ、正しい性知識がないばかりに梅毒など性感染症になったり、予期せぬ妊娠をしたりする若者が多くいます。そこで、避妊方法を学べるように避妊用品の見本と、避妊法や性感染症、相談先などを掲載した冊子を詰め合わせた啓発キット「ポケット避妊教室」を中学・高校の保健室などへ提供しました。同時に、若者が気軽に相談できる場づくりのために養護教諭向けにオンライン研修を実施しました。

主催団体のNPO法人ピルコンは2013年からこれまでに、2万人以上の中高生～大学生への性教育機会の提供のほか、1200人以上の保護者・PTA向けに性教育の講演を行ってきました。今回の事業ではキット1千個を配布、400人を対象とした研修を実施しました。水野久榮様ほか1名様からの遺贈寄付が活かされています。水野様は「日本の子どもの未来のために活用してほしい」という思いを表明されていました。

キットを実際に使った方からは「話しにくいテーマだが実物に近いものを手にするとどんどん意見が出た」「保健室に置いておくだけで、自然と生徒が見て箱を開けて興味津々に触ったりしています」などの声が寄せられているそうです。



本事業は水野久榮様とK様の遺贈寄付を活用させていただきました。

- 実施団体名／特定非営利活動法人ピルコン
- 事業費総額／10,700,000円(支援額 10,700,000円)



子どもの安全ポータルサイト構築

事業内容

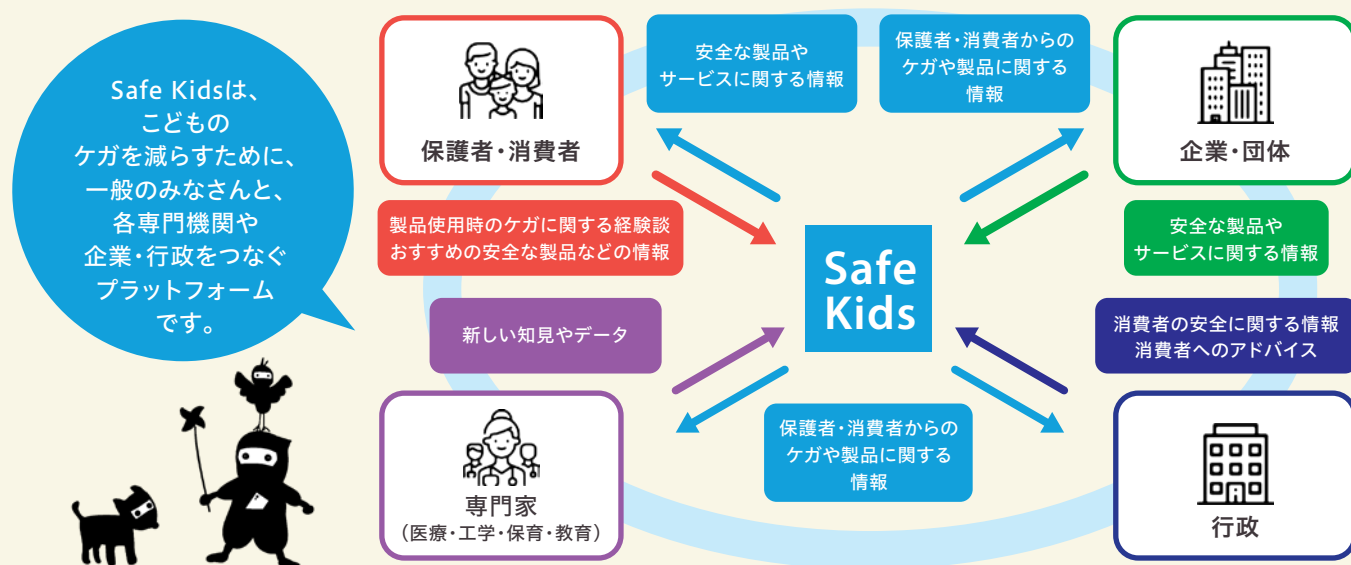
子どもの事故による傷害を予防するために、
情報提供を行うポータルサイトの構築に支援いたしました。



日本で1歳から19歳の死亡原因の多くは、転落死や溺死といった「予防可能な事故」です。しかし、子どもの事故は保護者の責任という考えが強く、「危ないことが起こったが、幸い大事には至らなかった事象」、いわゆる「ヒヤリハット」などの情報が積極的に共有されにくく、未然に防げる可能性のある事故がまた起きてしまう傾向があります。そんな情報を共有するための場として、NPO法人Safe Kids Japanがポータルサイト「こどものケガを減らすためにみんなをつなぐプラットフォーム Safe Kids」を立ち上げました。「日本の子どもの未来のために活用してほしい」と願われた水野久栄様の遺贈寄付が活かされています。

ポータルサイトでは、例えば「歯ブラシによる刺傷」「抱っこや抱っこひもからの転落」といった事故事例とそれを防ぐための方法などが解説されています。また、子育て中の人々が身近に感じたヒヤリハットの経験や情報を投稿したり、行政や企業、医療機関などが安全な製品情報や危険を避けるための工夫などを投稿したりできるようになっています。

重大な傷害を負う件数が大幅に減少し、子ども達が健やかに成長する社会が実現するよう日本財団は願っています。



本事業は水野久栄様からの遺贈寄付を活用させていただきました。

- 実施団体名／特定非営利活動法人 Safe Kids Japan
- 事業費総額／4,620,000円(支援額 2,310,000円)



日本財団 夢の奨学金

事業内容

社会的養護施設で暮らした若者たちの
進学に対する給付型奨学金事業です。



社会的養護で暮らした経験のある若者の高等教育への進学率は全体平均よりも低く、中退率も高いという現実があります。経済的理由やサポートする大人が身近にいないことがその原因だといわれます。

そこで、専門学校や大学の入学金、卒業までの授業料全額、生活費、住居費などを給付するだけでなく、ソーシャルワーカーが進学や就職をサポートする伴走型支援をすることで孤立を防ぐのが本事業の目的です。一般的な奨学金と異なり、社会人でも利用できるのも特徴です。2022年度は5人の方々からの遺贈寄付と相続財産寄付を活用しました。それぞれに子どもの未来への思いを託されています。

奨学金を受けた学生たちによる報告会が毎年開かれています。「コロナ禍ではアルバイトも思うようにできませんでした。奨学金があったおかげで歯科衛生士の専門学校を卒業して就職できました」という報告や、大学に通う中で「人に頼る、失敗してもよい」と思えるようになったという声もありました。

事業は2016年からスタートして現在30人(2023年3月時点)が奨学生として在籍しています。若者が不当に未来を閉ざされることのないよう、意思あるご寄付が希望になっています。今年度は昨年事業実施を決定した片方善治基金と児玉せつ子様(故人)の相続財産寄付を活用させていただきました。



本事業はU様、高木邦寛様からの遺贈寄付と、O様、矢野敬一様(故人)、辻幸栄様(故人)の相続財産のご寄付の活用を決定いたしました。

- 事業費総額／56,290,873円(支援額 56,290,873円)



遺贈寄付のその後

～カンボジアにおける簡易体育館建築事業～



「活動報告書・2019」でご紹介した事業のその後についてご紹介します。

本事業は「日本よりも厳しい状況にある海外の方々の役に立ててもらいたい」と遺言書に書かれたY様の遺贈寄付により支援いたしました。

体育館は無事に完成し、教育目的の利用だけでなく、コミュニティの集会所として、コロナ禍においてはワクチン接種会場や感染者の隔離場所としての機能も果たしました。村の皆さんにも大変喜ばれたという声が届いています。



1 その他の活動

セミナーを 実施いたしました

- ・首都圏／東京、大宮、横浜、千葉
- ・全 国／仙台、新潟、名古屋、静岡、京都、大阪、広島、福岡



コロナ禍も落ち着きを見せ始める中、2022年度は首都圏を皮切りに、全国地方都市にて遺贈相談セミナーを実施いたしました。

各地のセミナーでは相続遺言専門行政書士の佐山和弘先生の他、遺贈の実務に携わる講師にお話をいただきました。各回とも活気のあるセミナーとなり、多くの皆様から直接思いをお聞かせいただく絶好の機会となりました。

2 その他の活動



研究大会のご案内

日本相続学会研究大会に登壇しました

10月22日、日本相続学会の研究大会のシンポジウムで、遺贈寄付サポートセンター チームリーダーの木下がパネリストとして遺贈寄付の話をしました。遺贈には、寄付者それぞれの思いが詰まっていること、その思いを大切に活かして事業を実施することが大切であることをお伝えしました。

「海外の子どもたちに」と遺した1.5億円の遺贈寄付がミャンマーの特別支援学校に活用された事例や、末期の癌を患いながらご自身の「人生最後のお買い物」を遺贈に託し遺言書を書かれた方の話をご紹介しました。弁護士の先生方にも熱心に聞いていただき、「遺言を通じて遺贈寄付が実施される意義を改めて認識した」と、お言葉をいただきました。



アンケートを実施いたしました

～遺言・遺贈に関する意識・実態把握調査～

■調査概要

調査対象 全国の60歳～79歳男女

回答数 2,000

調査除外 印刷業・出版業／マスコミ・メディア関連／情報提供サービス・調査業／広告業の関係者

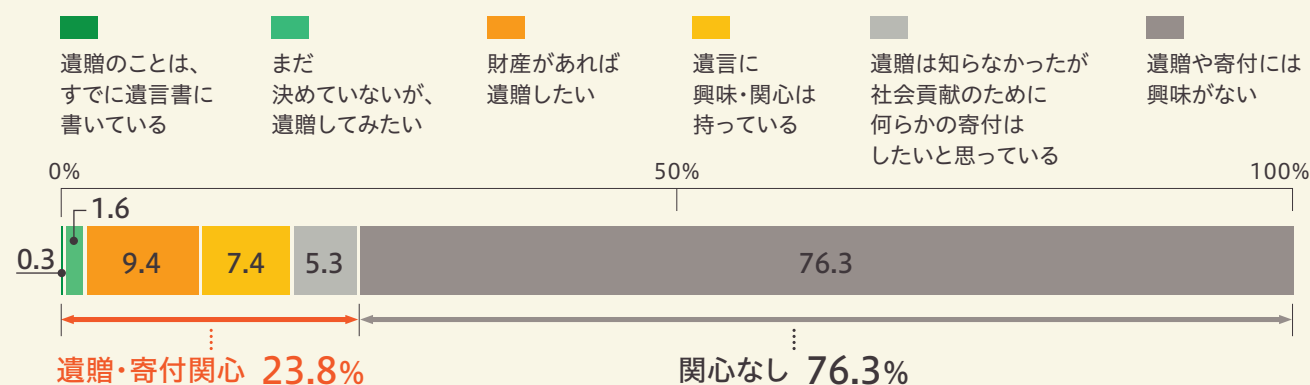
実施期間 2022年11月24日(木)～11月28日(月)

調査方法 インターネット調査

*注記:本編の図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはなりません。

■主な調査結果

Q1. あなたは「遺贈」をしてみたいと思いますか。(単一回答) (n=2000)



Q2. どのような団体に対して

遺贈したいとお考えになりますか。(複数回答) (n=475)

●遺贈したい団体

1位 社会的に意義のあることに使ってもらえる団体 42.5%

2位 自分の意思に沿って使ってもらえる団体 31.6%

3位 これまでの活動実績が良いと思う団体 22.9%

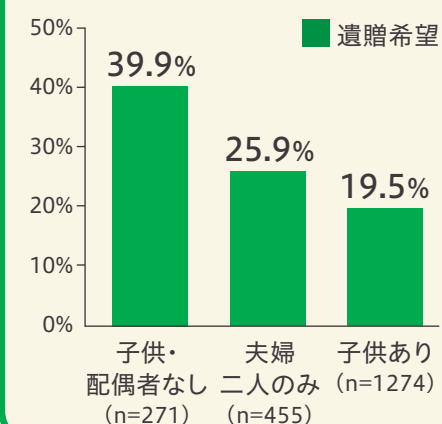
4位 経営がしっかりしていて、将来への信頼性が高い団体 21.1%

5位 地域に根ざした活動を行っている団体 16.0%

6位 遺贈した財産を団体の管理費に使わない団体 14.3%

7位 国際的に活動をしている団体 10.1%

法定相続人別の遺贈意向 (単一回答) (n=2,000)



《調査結果》

https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2022/12/new_pr_20230105_01.pdf



第7回 ゆいごん川柳を募集し大賞を決定いたしました

日本財団では、家族や大切な人と「遺言」について話し合う機会にしてもらいたいと、1月5日を「遺言の日」に制定し、ゆいごん川柳の募集を通じて遺言の必要性を発信しています。今年度は過去最高の14,816作品もの応募がありました。また、三井住友信託銀行様、三菱UFJ信託銀行様、タレントの田村淳様にご協力いただき、特別賞を新設いたしました。

選考委員として昨年度に引き続き、相続遺言専門の行政書士 佐山和弘先生、落語家の桂ひな太郎様、全日本川柳協会様にご協力いただいたほか、特別賞の選考委員として、三井住友信託銀行様、三菱UFJ信託銀行様、タレントの田村淳様にご協力いただきました。



佳作

遺言書 あって家族の 福反応

島根のぽん太さん(54歳/島根県)

遺言を 書いて終活 一区切り

黄昏月さん(81歳/神奈川県)

人生に 余韻を残す 遺言書

きいこさん(26歳/神奈川県)

遺言書 そのうちよりも 今のうち

蒼介さん(46歳/愛知県)

引き際の 社会貢献 遺贈寄付

すこびおさん(70歳/新潟県)

長々と 書いたらまるで 懺悔録

天和さん(65歳/群馬県)

三井住友信託銀行賞

金はナシ お前だけが 遺産だよ

オカンノさん(44歳/大分県)

三菱UFJ信託銀行賞

遺贈寄付 新たな夢の はじまりに

ヨシネコさん(44歳/千葉県)

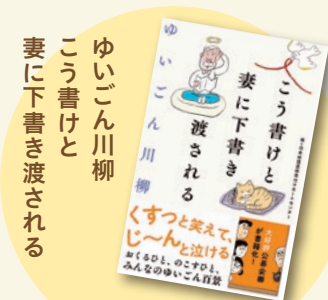
田村淳(itakoto)賞

子を思う 母のメモあり 小引き出し

すみれさん(70歳/愛知県)

ゆいごん川柳の本を 出版いたしました

遺す人も、送る人も、みんなで読める「ゆいごん川柳」の傑作選の数々。普段話題にしない「遺言」について、明るく笑い、しみじみ考える最初の一步になる一冊です。



日本財団
遺贈寄付サポートセンター 編集
イースト・プレス社

私たちについて

担当常務 笹川 順平

ドネーション事業部 部長 橋本 朋幸

遺贈寄付サポートセンター事務局

チームリーダー 木下 園子

リーダー 佐々木 秀仁

相談員 尾形 芳雄

(五十音順) 窪内 栄子

佐藤 恵子

林 勝己



顧問

弁護士 鈴木 大輔 氏

(東京リベルテ法律事務所所属)

執筆協力

星野 哲 氏

(立教大学社会デザイン研究所研究員)

編集後記

コロナ禍によって私たちを取り巻く状況は大きく変わってまいりました。

しかし「おかげさま」の気持ちはどんな時代でも変わらないのではないのでしょうか。

本紙を発行するにあたり、沢山の方にご協力をいただきました。寄付者の皆様はもちろんのこと、発行にご協力いただいた皆様の「おかげさま」でこの活動報告書をお届けすることができます。改めてここに感謝申し上げます。

お問合せ先

0120-331-531 通話料無料

9:00～17:00(月～金／土日祝日を除く)

日本財団 遺贈寄付サポートセンター

〒107-8404 東京都港区赤坂1-2-2

<https://izo-kifu.jp/>



 **日本財団**
遺贈寄付
サポートセンター
THE NIPPON FOUNDATION
LEGACY GIFT SUPPORT CENTER